

# すくすくと 一流れのほとりに植えられた木のように

いかに幸いなことか 神に逆らう者の計らいに従って歩まず 罪ある者の道にとどまらず  
傲慢な者と共に座らず 主の教えを愛し その教えを昼も夜も口ずさむ人。  
その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び 葉もしおれることが  
ない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。  
—詩篇1編1～3—

# 部会だより

キリスト教  
保育連盟  
神奈川部会

2008年2月15日  
第113号



## 『園庭の木』

二本榎幼稚園 牧師 川又 志朗

イスラエル旅行した時に、いちじくの木を見て驚いた。枝を大きく広げ、葉がびっしりとついている。木の蔭に入ると涼しい。あたりに芳香を放っていた。大木だった。註解書は、いちじくの木陰は勉強の場所として用いられたと説明するので、フィリポが四五節でナタナエルに律法と預言者について語ることは文脈を理解できる。主イエスはナタナエルを見ておられた。そして今は、幼稚園での私たちの働きを見ておられる。冬休みの園庭は遊具がでていない。けやきの太い枝からロープがたれている。劇作家ベケットの作

### 聖句

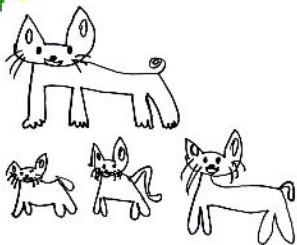
……イエスは答えて、「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた。

品の舞台のように見えるロープは、船具を扱う店で捜した太いロープで、昨春の若葉の頃に在園児の父親に頼んで苦心して取りつけた。けやきの枝は丈夫だと植木屋さんが保証してくれた。次の朝、園児がロープに跳びついてぶらさがる。卒園児も興奮する。女の子（四年生）が両腕両足を上手に使う上りの結び目まで上り、スルスルと下りたのでほめると、手の平がやけたアーと呼び、「今の子はいいい、私がいた昔はなかったア」五年前は昔なのだ。けやきの木は、修養会に米持参が当り前だった頃、会場の庭の隅の崖に生えていた若い木を掘り出して、米を入れた布袋に入れて持ち帰り育てた木である。雨の日もロープに跳びつく。葉にたまった雨水がシャワーとなって降りそそぐ。誰もいない時に限り、私も跳びつく。

ある日の午後、老夫妻が来訪した。七十代後半の紳士は、パツと見では、立派な服装の紳士だった。認知症が急に進行し、幼児期の想い出だけを語るとのことだった。老紳士は庭のいちじくの幹に両腕を広げて抱きつく。幹と両手の甲が同じ色で、同じしわであった。「ダレカサンガ マンナカデナイ テイル ナニガカナシウテナイテイル ナミダファイテナミダファイテ、オスキナトモダチオヨビナサイ」木の周りを歩く、両手で幹をなでる、泣きながら歌う。この木の上に戦前は小屋を作り、よじ登ってあそんだと聞いている。いちじくは戦火のなかで焼けずにすんだ、いちじくは火事に強い性質なのだ。幼稚園は英語共通で、キンダーガルテンと呼ばれる。直訳は子どもたちの庭であり、フレイベル先生の造語である。幼稚園の庭に多種多様な樹木がほしい。葉の形がちがう木がほしい。形のちがう葉をみる楽しさは、知恵を学ぶことに通じている。いちじくは漢字で鴨脚樹とも表記する。扇形の葉を鳥のあしとみたてたのだから。絵本「おおきな木 ザ・ギビイング ツリー」(シルヴァスタイン作)のテーマは人生論である。老いた卒園児の来訪を待っていたあの日のいちじくの木は、ウエイテング ツリーであった。今は冬、木は春を待っている。



「こいぬが3びき  
うまれたよ」  
(5歳児)



今年度、主任になられた先生に一言いただきました。

## 子どもたちの輝きに導かれて

鵜沼めぐみルーテル幼稚園

主任 前田 恵里

新しい年を迎え、改めて日々神さまに守られていることを幸せに感じて三学期をスタートしました。我が幼稚園は、江ノ電の鵜沼駅より徒歩二分。鵜沼めぐみルーテル教会が、幼児教育を通して地域社会に役立つ働きをするために設立された幼稚園です。

今からちょうど六年前、私はこの園と出会いました。懐かしさが漂う古い建物、一学年一クラスずつの全三クラス教室が並んでいる小規模の幼稚園。子どもたち一人ひとりが、いきいきと輝いて遊びに夢中になっている姿に惹かれ、就職を希望しました。

働き始めた頃を振り返ると、毎日目の前のことに必死になり、心にゆとりがなかったように思います。子どもたち一人ひとりを見つめる中で、集団生活の大切さや保護者との関わりなどの難しさを感じ、何度も何度も大きな壁にぶつかりました。その度にご指導くださった先生方には感謝しています。今年度、六年目を迎えた四月か

ら、主任という立場が変わり、今までよりも保育の中で視野が広がり、子どもたちと密につながるばかりではなく、距離をおいて子どもたち同士で築いていく人間関係や個々の成長を、少しゆとりをもって楽しみ、喜び合えるようになりました。しかし、主任として瞬時に判断しなければならぬ場面での対応、行事の中で大切な役割を任せられた時の責任、後輩の先生たちに伝えていく難しさを知り、自分の未熟さに落ち込んだり考えさせられたりすることも多くあります。幼稚園全体のことをよく把握して、様々な場面で適切に対応していくことが今後の課題です。

何よりも、これまで幼稚園教諭を続けてこられたのは、神さまに導かれて、毎日たくさん子どもたちが放つきらきらとした輝きから力強いエネルギーをもらい、今日まで自分も一緒に成長してこることができたのです。

これからも子どもたちと共に、神さまに祈ることを大切にしていきながら、子どもたちの成長に手を差し伸べていきたいです。



「わたし」(4歳児)

## 第二回主任研修会報告 「ちいさなお話の作り方」

講師

河井ノア先生  
(イラストレーター)

会場

藤沢教会礼拝堂

参加者

二十九名  
担当 堀口 由利子

クリスマスを目の前に控え、心せわしい日々を送っていた十一月二十二日(木)。一日の保育を終え、息せき切って藤沢教会に駆けつけました。そこには三時間もかかって来てくださった河井先生ご夫妻が、沢山の原画を並べていらつしやるお姿がありました。光の当たり具合をみて、どこにどの絵を飾るか心を砕きつつ、一つ一つ丁寧に飾っていらつしやるお姿を拝見し、どんなに御自分の作品たちが愛おしく思っているらつしやるかが伝わってきました。いつもの研修会とは一味違い、そこはまるで小さな美術館。

印刷とは違う温もりや、息使いまでもが感じられる河井先生の作品たちに囲まれながら、優しく語りかけてくださる先生のお話に聴き入り、涙する方も見受けられました。一人の子どものために作る世界でただ一つのお話。その子のことを思い、その子の興味や思いを受け止めながら、このことを伝

えたいという深い想いを持って作るお話。そして、そのお話を充分準備を重ねて語る時、子ども心に響くものがきつとあるということ、先生のお話から感じました。また、先生は聖書の中の真理をあるときは比喻を使い、子どもに分かり易い方法で伝えてくださることも伺いました。

最後に参加者一人ひとりが自分で自分の好きなどころを見つけて、自分自身に呼び名「ラブリーネーム」を付けることになりました。(ここで初めて、受付で配られた番号札の意味が分かりました。)指定された番号の方々がラブリーネームを発表し、その度に拍手や笑いが起こり、和やかな・温かな気持ちの内に、あつという間に閉会の時間になってしまいました。

心をすり減らしそうになっている時期に、このようなステキな時を与えられ本当に感謝でした。お忙しい中、会場を準備してください、手作りのお菓子でもおてなしくださった、みくに幼稚園の先生方にも心から感謝いたします。



イラスト・河井ノア



クリスマス礼拝で証をしてくださった、初代部会長の高田彰先生が部会だよりのためにまとめてくださいました。

## 子どもに福音を

高田 彰

ある夏の終わりに近所のおじさんに連れられて夕方の散歩に出かけた時、路傍に立つ数名の人たちに誘い込まれたのがその時は未だ知らなかった教会で、特別の集会でした。大人の集会で壇上に入れ替わり何人かの人が喋っていました。子どもは私にはいっこうに分かりませんでした。祖父が軍人でお前はおじいさんの後継ぎになるのだと厳しく躰けられていた私はとにかく大人の分からない話をおとなしく聞いていました。が、最後に出てきたのが異人さんでした。黒い服に胸に白いハンケチ、白髪頭でとがった鼻に銀縁の細い眼鏡をかけ赤い頬をして手に黒い表紙の本を持っていました。白いハンケチで涙を拭きながら「ワタシハナスコトアナタガタスコシモワカラナイ ワタシカナシクナリマス」と、泣きながら話したこと、そして片言の日本語での話が大体理解できました。大きな船でのこと、厳しい船長が甲板にタバコの

吸殻を見つけました。全船員が集められ調べが始まりました。誰が捨てたのか分かるまで出航しないと宣言しました。船員たちは誰が捨てたのか知っていました。船長は黙っていました。言えばその男からどんな仕返しを受けるか分からないと言う恐れもあります。船長は分かるまで船は出さないといい、若い船員が、私が捨てましたと名乗り出て罰を受け、船は港を出ることが出来たという話でした。その翌年、私は小学校一年生でした。十一月のある朝、夜明けに父に起こされました。「ママにさよならをするんだ。」酸素吸入をして医師、看護婦、おばあさん（母の母）、ばあやたちが取り囲んでいたことを憶えています。母の開いた顔をおばあさんが綿でそつととじるようにおさえていました。母とは二、三日顔を合わせなかったような気がしていました。大正七、八年の世界的流行性感冒で今でもスペイン風邪と言われてその猛威を憶えられている流感で母は亡くなったのでした。母との永別で私は人生に死があることを知りました。人間はなぜ死ぬのだろうか、死んで何処へ行くのだろうか、人生究極の問いが与えられました。十八歳の日、教会の求道者会で「贖罪」について教えられました。何処かで聞いたことと思いました。

六歳の日あの老宣教師が片言の日本語で話した若い船員が身代わりに受けた罰がそれだったと分かりました。昭和五年バプテスマを受けました。当時キリスト教童話協会の会員になっていました。二十三歳の日、教会で三日連続の修養会があり、その最後に講師の「神の御用のために献身するものはいないか」との声に、私は立っていました。立った三人は呼び出されて祈られました。帰宅して眠れぬ一夜を過ごしました。その夜明けに、かの老宣教師の姿が浮かびました。――そうだ、子どもに分かる言葉で語れば福音を伝えることが出来る。子どもへの伝道のために―― 献身の目標が示されました。 社会生活からUターンして青山学院神学部予科一年に入学を許されたのは二十五歳、通常のコースなら卒業の年でした。入学して翌年、二・二六事件がありました。昭和十一年です。その年、人形劇講習会でギニョール（指遣い人形）の製作を知り、人前で話すことの苦手な私にとつて黒い幕の後ろに顔を隠して人形に喋らせることが気に入り、人形劇を得意業として日本中ばかりでなく北米の日本人教会にまで自作に人形に活躍してもらいました。



「きょうは さむいね」  
(5歳児)

戦争が始まり、私は任命を受けた安藤記念教会から陸軍歩兵として入営する級友の後を受けて茅ヶ崎教会に移り終戦まで過ごしました。光座と名づけた人形一座は県から命じられて疎開学童や傷病兵の慰問に活躍しました。戦後、銀座教会へ、さらに鎌倉教会同付属ハリス記念幼稚園に招かれたのは昭和二十三年でした。以来六十年、度々病み入院も繰り返し、今日を生かされ九十六歳にわれながら不思議を覚えます。神奈川部会の四十周年にも招かれクリスマス礼拝に証をゆるされ、子どもへ福音をとの目標を与えられての生涯は、ただ感謝の一言につき、究極の死もキリストを信じる信仰に生きる喜びにあることを八歳の日の答えとして与えられ、神の御名をほめ讃えます。

※人形劇はトルストイ原作「靴屋のマルチン」でした。老人になった当時の園児が覚えていてくれます。

《役員会報告》 書記 田名網 仁

十二月五日（水）清水ヶ丘教会にて第五回臨時役員会、一月十日（木）平塚二葉幼稚園にて第六回役員会が行われましたので報告いたします。

◆クリスマス礼拝献金送付先

献金総額は二十四万九千五百円  
横浜訓盲学院に八万九千五百円  
能登半島地震被災教会に八万円  
国境なき医師団に八万円を送金いたしました。

◆園長・設置者研修会

今年度は諸事情により取りやめとなりました。

◆主任研修会

十一月二十二日（木）

会場 みくに幼稚園

講師 河井ノア先生

二十九名（うち二名講師）出席

◆園長・主任研修会

一月十七日（木）

講師 菅原 創先生

会場 清水ヶ丘教会

◆全体主任会について

二月十五日（金）十五時三十分より、一年間の振り返りを行う予定。場所は未定。

◆二〇〇八年度夏期講習会にむけて話し合いをもちました。

日にち 八月二十九日（金） 予定  
場所 関東学院を予定  
テーマ・講師については継続審議

部屋の装飾いろいろ

子どもたちがゆったりと安心して過ごせるように、お部屋の装飾は季節に合わせて素敵にしたいものです。

皆様はどのように工夫されていますか。ぜひ写真を参考に環境づくりをされてはいかがでしょうか。



毎日シールを貼るスペース、毎日使う場所だからこそ素敵にしたいですね。絵葉書等を飾って。



子どもたちが遊びに使っている人形をボードに使用しました。布使いを工夫して立体感を出しています。



窓辺に季節の花とクロスステッチの飾りを。額のもの一度作れば取り替えも簡単。絵や写真等もいいですね。



玄関にある装飾スペースです。子どもたちが園庭で拾った葉や枝を使い、羊毛で手作りした人形を置きました（下の写真）。子どもたちがいつでも触れることができるようになっています。

あわせて絵本にも興味を持てるように、人形の題材になっている絵本を共に飾っています。



編集後記

二〇〇七年度最後の部会だよりとなりました。原稿を書いてくださった先生方、心より感謝いたします。広報担当が替わり不慣れゆえ、不行き届きのこともあったかと思いますが、皆様の保育に少しでも役立てていただけると幸いです。りをと、作成いたしました。御意見、御感想等がありましたら、どうぞお寄せください。

発行日

二〇〇八年二月十五日

発行所

平塚市見附町六一十八

平塚二葉幼稚園 内

キリスト教保育連盟 神奈川部会

編集者

神奈川部会 広報担当